

## 第31回甲府市地域自立支援協議会全体会 議事録

日時 令和3年7月30日

13:30～

場所 甲府市役所6階大会議室

### <参加者>

大塚ゆかり会長 鈴木茂友委員 渡辺花子委員 小林政雄委員 津金永二委員（代理） 佐田弘和委員  
堀栄司委員 平野浩委員 板山俊介委員 池上照美委員 青柳京子委員 上條武人委員 渡辺亜矢子委  
員 土橋誠委員 石川瑞奈委員（代理） 中込幹委員 永井保行委員 保坂辰男オブザーバー 飯室正  
明オブザーバー

### <事務局>

甲府市役所：高野福祉保健総室長 原山障がい福祉課長 雨宮課長補佐 保坂係長 下山係長  
武田係長 村松主任 田中主事 大柴技師

甲府市障害者基幹相談支援センターりんく：深澤係長 本山相談員 小池相談員 三浦相談員 小林相  
談員

甲府市地域生活支援拠点コーディネーター事業らいぶ：保坂コーディネーター 市川コーディネーター

司会 原山障がい福祉課長

議長 大塚ゆかり 会長

### 次第

- 1 はじめのことば
- 2 全体会会長あいさつ
- 3 福祉保健部福祉保健総室長あいさつ
- 4 新委員の紹介
- 5 議事（協議事項）
  - (1) 甲府市地域自立支援協議会のあり方について 資料1-1
  - (2) 年代別ピアサポーターについて 資料2
  - (3) PCR受診行動がとれない障がい者対応について等 資料3
- 6 議事（報告事項）
  - (4) 甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告 資料4
  - (5) 専門部会・プロジェクトの活動報告 資料5
    - ①地域移行部会
    - ②児童部会, 医療的ケア児（者）支援協議会
    - ③就労支援部会
    - ④相談支援部会
    - ⑤権利擁護部会

⑥相談支援スキルアッププロジェクト

- |                            |          |
|----------------------------|----------|
| (6) 新型コロナウイルス感染症対策に関する活動報告 | 資料 6     |
| (7) 甲府市より                  |          |
| ①甲府市障がい者福祉計画について           | 計画書及び概要版 |
| ②地域生活支援拠点事業について            | 資料 7     |
| ③甲府市地域自立支援協議会設置要綱について      | 資料 1 - 2 |
| (8) 県障害者自立支援協議会からの報告       | 資料 8     |
| 7 その他                      |          |

議事

- (1) 甲府市地域自立支援協議会のあり方について

甲府市：資料 1 - 1 について説明。

会長：協議会の運営について今後も大きく変えずに行っていきたいが、全体会の役割を考えたいと思う。

定例会において、各専門部会が現場で調査を行い、課題を見つけ、各課題に沿って解決に向けた実績の報告しており、その報告を全体会で承認し情報共有しているのが現状である。それ自体は大切なことなので、今後も継続していきたい。しかし、全体会の行っている内容が定例会と同じになってしまっているのではないかと思う。全体会は各関係団体の長が集まっている。各部会の報告に課題を追加してもらい、課題に対して長の集まりである全体会として何ができるのか検討し、解決策を出し合って定例会に返すなどといったあり方で全体会を運営していきたいと思うが各委員の意見を聞きたい。

オブザーバー：定例会にも参加しているが、定例会が各専門部会の報告の場になっていると感じている。

専門部会の活動報告はあるが、どこまで進捗していてどこまで達成できているかがないため、地域課題の現状が見えづらい。難しいとは思いますが、全体会、定例会で地域の課題が見える形で協議されるべきである。

委員：全体会が、部会の報告を聞くだけで終わっているということは実感している。その中で、協議された課題が、各専門部会でどのようにいかされているかが報告がないため伝わってこない。全体会について、しっかりと協議をする場になるべきだと考える。

オブザーバー：他のオブザーバーの意見にもあったが、専門部会は一生懸命活動しているが、それが現状の報告では進行管理が伝わりにくいと思う。報告様式などを作成し、現在の進捗状況や今後の検討課題についてより分かりやすい形で報告を受けたい。現状の報告だけで終わっているのは非常に勿体ないと感じているのでご検討いただきたい。

委員：定例会で協議したが解決されなかった課題が今までもあると理解してよろしいか。

会長：定例会と専門部会でかなり活動してくれている。定例会での協議結果が全体会へ伝わってくるが、その時に課題が見えにくくなってしまっていると思う。報告にも課題を載せる様式になっていない。定例会、専門部会の課題に対して、長の委員としてできることがあるのではないかと思う。全体会をそのように進めていきたい。

委員：他市町村の自立支援協議会での取り組みや事例などがあつたら教えていただきたい。

オブザーバー：山梨県内の場合、資料1-1の5ページが国の示すやり方ではあるが、それとは違う形で運営している市町村が多い。全体会が年2回だと、なかなか物事が進んでいかない問題がある。そのため、体制の都合で本会を一本化しているところもある。また地域課題の抽出方法について、市長村で様々であり事例検討を専門部会ではなく基幹センターに任せているところもある。他には、地域課題を羅列して本会へ出して可視化して検討しているところもある。

会長：全体会は市長の委嘱、任命を受けているため現体制を維持する想定である。地域生活支援拠点整備を検討する際に定例会、専門部会では現場の地域にあるサービスを細かく調べていただいた。全体会の良さと定例会、専門部会の良さを組み合わせていければ、甲府市の障害福祉サービスの充実により貢献できるのではないかと思う。今後は、提案した形で全体会を進行させていただきたい。不具合が生じた場合には、再度検討していくという形をとっていきたい。

議事（1）について、委員からは異議はなく、出席委員全員の承認を得た。今後、定例会での地域課題を全体会で協議し、定例会に返していく方法で運営をしていく。

## （2）年代別ピアサポーターについて

甲府市：資料2について説明。

会長：ピアサポーターの現状について、オブザーバーより説明をお願いします。

オブザーバー：山梨県の現状については、精神科病院から地域移行に移行する際、県が実施している研修を受けたピアサポーターが支援を行っている。今年度の報酬改定に伴って、就労支援事業所、相談支援事業所において、ピアサポーター雇用のための研修を予定している。過去にピアサポーター養成研修を実施していたが、現在では行われていない。

会長：私の見解として、私自身ピアサポーターの養成にも携わってきたが、自分の経験を活かした人たちがお互いの話しを聞き合い、お互いに支え合う場を設けて欲しいという意味合いがあるのではないかと感じる。

定例会の委員が行っている事業に、障がい児をお持ちの親御さんたちが集まって、相談に乗ったり、話し合いをするという場を設けることを現在行っているが、それに近いイメージなのではないかと考える。

オブザーバー：この場で話し合われたことについて、甲府市としてどう施策に反映するのかお伺いしたい。

甲府市：このご意見を今年の2月にいただいたこともあり、計画の策定に反映はできなかった。この議題に関しては、すぐに解決するものでもないので、まずは本協議会で協議をしていただいてご意見をもらってから検討していきたい。

甲府市：今年度策定した甲府市障がい者福祉計画においても、発達障がい児者支援の活動指標の中でピアサポート活動について、本協議会の協力を得る中で、仕組み作りを検討していく時間が必要だと考えている。

会長：今後、計画の方にも今回の議案を入れていただきたい。最終的には、障がい者たちが集まる場を作ってください、甲府の事業としてどう組み込んでくるかを検討する必要がある。今後も検討課題として、定例会や全体会で意見を出し合って障がい者が活躍できる場を作っていきたい。

議事（2）について、委員から異議はなく、今後も検討課題として協議していく。

### （3）PCR受診行動がとれない障がい者対応について等

甲府市：資料3について説明。

甲府市：本協議会全体会と定例会の会長名で市に対し要望をいただいたことを受け、フローチャートを作成した。このフローに沿って相談支援専門員が中心となって対応する。相談支援事業所には連絡会で周知済み。

委員：市が窓口として対応方法を定めた点は大きいと思う。連絡窓口と判断が相談支援専門員であることから、責任や対応について心配をしている方がいた。連絡会での周知だけでは理解しきれていない方もいるので、今後も丁寧な説明をしてほしいと現場からの声を聞いている。

会長：相談支援専門員が利用者にとって一番身近な存在なので、現況を把握していただいて、そのあと市で対応していただくといった感じで説明すればよろしいかと思う。今後、このやり方で問題が起こった際には、再度検討させていただく。

議事（3）について、委員からは異議はなく、出席委員全員の承認を得た。

(4) 甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告

りんく：資料4について説明。

会長：山梨県全体で相談支援事業所が不足している中、相談支援専門員が1人の相談支援事業所も増えている。1人だとどうしても不安や悩み事があるが、りんくではうまくフォローアップしていただき助かっている。

オブザーバー：事業報告の中の「ピアカウンセリングの実施」について詳しくお伺いしたい。また、事業計画の2(4)について、過去の実施成果や今後の取組みについてお伺いしたい。

りんく：まず、ピアカウンセリングの実施については、障がい者の集まりにりんくとして出席を行い、相談や障がいサービスへつなげている活動を行っている。

また、過去の実績に関しては、相談支援専門員同士でどのように活動しているかを確認している。そうすることにより、当事者の思いに対してどう支援しているか見えてくるのではないかということを確認している。また、今後の取組みについて支援をしていく中で、個別では解決できない課題がある。そういった課題を集約し、必要に応じて本協議会に報告、提案していきたい。

委員：4ページの相談件数について、13,039件という数字は昨年度と比較して多いのか。

りんく：令和元年度、平成30年度については、ともに約12,000件であり若干増えている。新型コロナの影響でサービスから離れてしまい孤立化したケースがあると相談支援部会から聞いている。サービスにつなげる難しさも感じている。

議事(4)について、委員からは異議なし。

(5) 専門部会・プロジェクトの活動報告

りんく：資料5について説明。

委員：専門部会がどういった報告を定例会にしているのか知りたい。

会長：定例会は各専門部会の活動を報告する場になっており、今回報告のあったことはそのまま定例会でも報告されている。今後、専門部会の報告について、課題や進捗状況などを盛り込み、定例会で出てきた課題について全体会で検討し、定例会に返すという形をとっていきたい。

オブザーバー：専門部会の活動報告の様式について、行った活動の報告だけでなく、進捗状況や地域課題について確認しやすいように変更する必要がある。各部会は定例会に進捗状況を報告し、定例会にて地域課題を確認できるようにすべきである。

会長：全体会にて出た意見については、定例会に意見をお返しするという形を今後取らせていきたい。

議事（５）について、委員からは異議なし。

（６）新型コロナウイルス感染症対策に関する活動報告

りんく：資料６について説明。

りんく：昨年度に通所事業所向け、相談支援事業所向けの感染予防対策ガイドラインを作成した。現在グループホーム向けガイドラインを作成中である。事業所間でお互いに感染対策の取組を共有する機会としていきたい。

議事（６）について、委員からは異議なし。

（７）甲府市より

①甲府市障がい者福祉計画について

甲府市：計画書及び概要版についての説明

会長：障がい者福祉計画については、本協議会と甲府市が意見交換を交えながら、現場に則した形で計画を策定している。今後は、この計画について、本協議会にて途中経過などを確認していきたい。

②地域生活支援拠点事業について

甲府市：資料７について説明

会長：地域生活支援拠点事業について、市内の事業所には協力をいただいて登録をしてもらっている。増えてはいるがまだまだ足りないのが現状である。今後、事業所や利用者について、個別の課題などについても報告をいただきたい。

オブザーバー：障がい者福祉計画の中で地域生活支援拠点について本協議会が見直しを行う場となっている。甲府市では本協議会が評価、検証の場となっているので、現状の課題や報告、協議事項があれば報告をお願いしたい。

③甲府市地域自立支援協議会設置要綱について

甲府市：資料１－２について説明

議事（７）について、委員からは異議なし。

（８）県障害者自立支援協議会からの報告

オブザーバー：資料８について説明

議事（８）について、委員からは異議なし。

#### 7 その他

委員：経費削減や事務局の負担軽減のため、追加資料や差替え資料はEメールで送ってもらった方がよい。